

巴川流域麻機遊水地自然再生協議会について

- ◆ 静岡市中心部の北部にある麻機遊水地は、二級河川巴川総合治水対策事業の一環として、出水時には洪水を調節し、普段は多目的に利用できる空間として整備が進められている。整備に伴い、大昔の麻機沼に生息していたハスの種が発芽し繁茂するほか、全国最大のミズアオイの自生地であり、タコノアシ、オオアブノメをはじめ、絶滅危惧種が多く生息している。平成13年10月には環境省の「日本の重要湿地」に指定された。
- ◆ NPO、地域住民、小中学校による環境教育・環境学習の場として利用されるとともに、草刈等の愛護活動も活発に行なわれているが、湿生植物の異常繁茂等が原因とみられる湿地の陸地化が進行しており、また、盛んな愛護活動にも関わらず、ゴミ等の不法投棄が後を絶たない。
- ◆ 平成15年1月に「自然再生推進法」が施行されたことを受け、平成16年1月に自然再生推進法に基づく「巴川流域麻機遊水地自然再生協議会」を設立。
 - 第1回自然再生協議会（平成16年1月29日）
 - ・国土交通省の地元機関、静岡県、静岡市、NPO、専門家等が参画して協議会を設立。
 - ・構成員は学識者2名、団体17団体、個人18名、行政関係者7名で構成。
 - ・全体構想を策定するための策定部会を設置。
 - 第2回自然再生協議会（平成16年8月11日）
 - ・麻機遊水地の水質についての報告
 - 第3回自然再生協議会（平成17年1月28日）
 - ・策定部会の活動についての報告
 - ・構成員に団体2団体が追加され19団体へ
 - 第4回自然再生協議会（平成17年12月16日）
 - ・策定部会の活動についての報告
 - ・関連する巴川遊水地第4工区浄化対策検討委員会での検討状況報告

位置図

